

市民力かわら版

第32号

平成24年11月15日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市総合政策課
電話：0287-43-1112
ファクス：0287-43-2292
Eメール：
yaita@city.yaita.tochigi.jp



矢板の秋・芸術の秋・スポーツの秋 あなたの秋は？

兵庫畑の棚田のオーナー制度が十周年を迎え、また同地区が「とちぎふるさと田園風景百景」に選ばれたのを記念し、兵庫畑の棚田をテーマにした写真コンテストが実施されました。かわら版三十号に募集記事を掲載したところ、三十三点の応募がありました。

準特選二点を発表しました。

●十月二十七日(土)、第二農場多目的集会施設で入賞者九人(内三人は代理)が出席し

◆みんなで選んだ写真コンテスト
写真の審査は、棚田の収穫祭に合わせて実施されました。オーナーが稲刈りをしている間に、「市民力かわら版」記者が応募のあった写真を公民館の部屋に並べて準備を行いました。

刈入れ作業終了後、棚田オーナーと地元農家の方による審査を実施。それぞれ自分の気に入った写真の番号を審査カードに記入して投票。
棚田オーナーが、地元農家のご婦人の方の手料理で収穫を喜んでおられる間に、かわら版記者が集計を行い、入選者を決定。その場で大賞と特選二点を

大賞作品 「棚田の朝」



表彰式が行われました。棚田農家代表の野滝勝さんから各入賞者に賞状と副賞(棚田清流米と、エマタカメラ店から提供された写真グッズ)が渡され、受賞者を代表して大賞受賞の大森信重さんからお礼の挨拶がありました。

私も審査員...



大森さんは「自然が豊かで静かで環境が良く、ここならのんびりと生活が出来ると思い、また、生まれが黒磯で実家にも近いので、六年前に前橋から下伊佐野に移住しました。毎朝近辺を散歩しています。その途中で、コンテスト募集の案内を掲示板で見つけました。写真は八年ほど前から始め、散歩のときはいつもカメラを持ち歩いていきます。これからもこの趣味の写真が続けたいと思います」と話していました。

なお、受賞作品は、現在、山の駅たかはらに展示されているので紅葉狩りの際にご覧になってください。

懐かしい「ぼうじぼ」



月見を三世代で楽しむ
九月三十日、午後三時から、片岡公民館で行われた三世代交流「月見夜楽」。

県の「子どもの生活リズム向上推進事業」の一環で、毎年県内各地でさまざまな形の事業が行なわれているが、県北では矢板市が初めて。

矢板市婦人会が県の要望を受け、実行委員会を結成し裏方を引き受ける事になった。

この日は、子どもやお母さん祖父母が一緒に十五夜の月見団子を作り、お月見飾り付け体験、やいた語り部の話などがあり、婦人会会員のお手伝いで、おにぎり、豚汁が振る舞われた。また、昔懐かしい「ぼうじぼ」も再現された。

残念ながら台風の影響で満月が見られなかったが、実行委員長の三好東子さんは「予想以上の参加者で、語り部の方の話に子どもたちがじっと聞き入っていたことが印象的だった。」と話してくれました。(K・H)